

校長先生の初恋物語

第12話 100円で買える最高のプレゼント



とっくんはおもちゃ屋さんをあとにして、おかしやさんに向かいました。

「あれをプレゼントしたら、よしこさんは、ぜったいに大喜びしてくれるぞ。」

おかしやさんにつくと、おかしやのおばちゃんに、大きな声で言いました。

「おばちゃん。カールのチーズ味ちょうだい。」

とっくんが悩み抜いて決めた最高のプレゼントは、「カールのチーズ味」です。

カールのチーズ味は、今は静岡県で買うことはできません。西日本ではないとうってないそうです。そのカールのチーズ味が、とっくんは、世

の中にあるすべてのおかしの中で、一番おいしいと思っていました。

カールを食べているとき、とっくんはいつも「幸せだなあ。」と思っています。そんな幸せを、よしこさんにも味わってほしいと思ったのです。

「おばちゃん。このカール、きれいな紙で包んでくれないかなあ。これ、誕生日のプレゼントにしたいんだ。」

おかしやのおばちゃんは、とっくに協力してくれて、店の奥からきれいな包装紙とピンクのリボンを持ってきてくれました。そして、カールをきれいに包み、リボンをかけてくれました。



カールが見事に化けました。とても100円とは思えないようなプレゼントに化けました。おばちゃんにお礼を言って、とっくんははずむ足どりでよしこさんの家に行きました。

よしこさんの家に行くのは初めてです。実は、よしこさんの家ははっきりと知りません。ですから、途中でいろいろな人に聞きながら、よしこさんの家を探しました。当時は子どもは外で遊ぶものでしたから、少し歩けば小学生がいて、また少し歩けば小学生。道を聞くことができる子どもはたくさんいたんです。

よしこさんの家の前まできました。その家の前で、とっくんはプレゼントの失敗に気づきました。だって、よしこさんの家は、なんと、おかしやさんだったのです。

「おかしやさんのよしこさんが、おかしをプレゼントでもらって、うれしいかなあ。」不安な気持ちでいっぱいになりながら、おそろおそろ中に入っていました。

楽しそうな笑い声がおくの部屋から聞こえてきました。玄関にはたくさんのくつがきれいに並んでいました。その靴の中には、特別巨大な、とんかつのようなくつがありました。27センチのダンプさんのくつです。足長君のピカピカ革靴もありました。一応、その革靴はふんづけておきました。

よしこさんのお母さんに案内されて、ろうかを歩いているとき、ダンプさんの元気な笑い声が聞こえてきました。その声で、家がゆれていました。とっくんは、にぎりしめたカールのチーズ味が入った包みを見て、「こんなので、大丈夫かなあ。」と、不安がますます大きくなっていきました。

「よしこー。とっくんが来たよー。」よしこさんのお母さんが、部屋の中にいるよしこさんに声をかけると、中からよしこさんが、フリフリの服をふりふりさせながら出てきました。

「とっくん、いらっしやい。さあどうぞ。中に入って。もうみんな来てるよ。」

みんながいる部屋の中に入ったとっくん。そしてこれから、とっくん、とんでもないピンチがやってくるのです。そのピンチとは……

次回予告 足長君のいやがらせ

とっくん、かくごはいいか!!

